ＦＫＰ方式：ﾘｱﾙﾀｲﾑﾀﾞｲﾚｸﾄ測位の事例紹介

MITSUBISHI 三菱電機 Changes for the Better

境界確定測量における適用

仙台市・土地家屋調査士鈴木洋一事務所　様

宮城県も過去大きな地震に何度も見舞われており、土地の境界を世界座標系での公共座標値を用いていれば、万が一、大地震が起き、境界の位置がなくなっても、復元測量が容易にできることから、０５年３月の不動産登記法の改正を機に導入。FKP方式を採用したのは、観測した座標値のばらつきが極めて少なく、誤差が緯度・経度方向に1ｃｍ～2ｃｍ以内に収まるという高精度である故。また、従来のスタティック測量に比べ、ＧＰＳ1台、調査員1名で観測でき

今まで1点の観測に1時間要したものが、観測は数分で済み、作業効率が上がり、導入のメリットは大きい。